

基礎経済科学研究所 自由大学院

大阪第三学科(金融流通協同組合論ゼミ)からのたより

[第828回ゼミ報告] 2021年12月3日号

早朝、関東で震度5弱地震とラジオが語学番組から緊急放送、3時間後、関西で同じ震度5弱地震でテレビの逆L字放送。南海トラフは別というけれど心配

11月24日のゼミは、マルクス『資本論』の第3巻6編37章緒論の後半(S.639から)を小野さんの報告で行いました。借地農営者は平均利潤より儲けが少なく、穀物法で輸入制限でも価格を高くできず、労賃は平均よりも下げられ、その一部分は地主に行く。工業労働に対して農業労働が対応し、農業労働は自然発生ではなく社会的発展の産物、近代的な生産段階に照応している。地代への分析において主要な誤りは、異なる社会発展段階での地代形態を地球の一定部分占有という共通性からそれぞれの地代を混同すること、地代を資本主義の特殊ではなく利潤の一般的存在条件から説明すること、地代の額を全生産部門と共通なことで独自性を解すること、という3つのである。貨幣地代は非農業生産が自立・発展する程度に応じて発展する。地代の独自性は土地所有により剰余価値から地代に転化することである。

討論では、社会全体の剰余価値から地主が取得、平均利潤率との関係はどうか、農業では可変資本比率が高く利潤率も高い。土地所有が平均利潤形成を阻止する。穀物法と農業問題は国際的問題、日本の輸入米等。人口は増え続けるのか、高齢化と少子化で人口減少だが、世界の人口は増えている。資本主義的土地所有、工場経営で土地は買う or 借りる。農業の工業化は。資本主義的土地所有と戦前日本の土地所有、小作と寄生地主。イギリスは借地農、フランスは個人経営農、地代論はイギリスの限られた問題か。

出席は、小野さん、川口さん、松村さんと高田の4名でした。

*次回12月8日ゼミで、斎藤幸平『人新世の「資本論」』が終わります。次のテキストの候補本の推薦・提案、できれば現物持参でお願いいたします。
推薦本：芦田文夫『「資本」に対抗する民主主義—市場経済の制御と「アソシエーション」』本の泉社、2021-10、青柳和身『マルクス晩年の歴史認識と21世紀社会主義』桜井書店、2021-10、岸本 聡子『水道、再び公営化！—欧州・水の闘いから日本が学ぶこと』集英社新書、2020-3 など

* 12月22日ゼミの会場変更：天六・大阪市立住まい情報センター・5階研修室、地下鉄・阪急天神橋筋六丁目駅下車3号出口から連絡

***** ゼミ日程 *****

12月8日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『人新世の「資本論」』第8章 気候正義・報告竹内さん

12月22日(水)午後6時半～9時 天六・大阪市立住まい情報センター
マルクス『資本論』第3巻8章 差額地代 概説 報告：高田

1月12日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
※新テキスト(未定) 報告者未定

その後 2022/1/26, 2/9, 2/23, 3/9, 3/23 : アイクルの部屋

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso